

平成27年度 高知県立大学大学院 看護学研究科 がん看護学領域特別講義

看護学研究科がん看護学領域では、がん看護専門看護師としてご活躍されている4期生の田代真理さんを講師としてお招きし、がん看護専門看護師の活動の実際と展望と題して特別講義を開催いたします。

本講義は、看護学研究科の院生、看護学部の教員、がん看護学領域の修了生他、がん看護に関心のある看護職の方を対象に公開し、今後の皆さんの活動の参考にしていただければと願っています。皆様お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。



テーマ：がん高度実践看護師の活動の実際と展望

講師：田代 真理 氏

元医療法人社団 緑の森さくらクリニック がん看護専門看護師

日時：平成27年11月23日（月・祝） 13：00～15：00

場所：高知県立大学池キャンパス 看護学部棟 C220小講義室

【お問い合わせ】

藤田研究室（看護学部棟C301）

E-mail: fujita@cc.u-kochi.ac.jp

Tel:088-847-8704



QRコード読み取り機能付き携帯
電話で読み取り、メールを送信
してください。

看護学研究科：がん看護学領域特別講義が開催されました。

平成 27 年 11 月 23 日、看護学研究科がん看護学領域特別講義が開催されました。

本年度は、本学研究科の 4 期生である田代真理 OCNS を講師としてお迎えし、「がん高度実践看護師の活動の実際と展望」についてご講義いただきました。参加者は、大学院生 14 名（がん看護学領域 4 名）、がん看護学領域修了生 2 名、がん看護学領域教員 4 名の計 20 名でした。

田代真理先生は、訪問看護ステーション、大学教員、訪問診療クリニック、JCHO 東京新宿メディカルセンターといった様々な場を通して在宅看護を実践しているがん看護専門看護師としてご活躍されています。現在は、病棟勤務をしながら部署内外の課題に取り組まれています。また、施設内の課題を明確にしなが、病院の訪問看護ステーションの立ち上げ、急性期病院から地域への移行支援、患者・家族への意思決定支援のシステム化、一般病棟における緩和ケアの質の向上に向け、日々、高度ながん看護実践をされています。

【講師紹介する藤田研究科長と田代真理先生】

【講師：田代真理 OCNS】



講義では、大学院修士課程を修了してから、OCNS として 6 つの役割機能を在宅看護の中で発展させてこられたプロセスをお話していただきました。在宅がん看護の実践として、外泊での訪問看護が診療報酬で認められていない時期に外泊訪問看護を実現させた事例や支援に難渋した事例を紹介していただきながら OCNS としての活動の実際を伺うことができました。これから、CNS を目指す院生にとっては、大学院での授業や実習を通して学んでいる内容と田代 OCNS が話してくれた実践をつなげて考える良い機会となりました。

また、田代 OCNS が、在宅で療養しているがん患者とその家族の QOL が維持、向上できるように、様々な職種と協働しながら、短い訪問時間でどのような看護を提供し残していく

か模索しながら実践を積み重ねてこられた活動が詳細に伝わってきました。

講義の最後に CNS として関わるケースを丁寧に理解する段階から、自己の実践活動を評価し、組織、社会に対して可視化してこられた CNS としての活動の広がりを提示いただき、ビジョンを描きながらキャリア開発されているモデルを見せていただきました。

【講義中の様子】



【質疑応答の様子】



受講した大学院生から、

「田代 OCNS は、訪問看護や大学教員、在宅支援診療所、急性期病院とそれぞれの場で課題は何かを明確にし、実践を行い、アウトカムを研究発表などの形で可視化されており、自身の活動をまとめ、他者に評価してもらおうということを CNS として続けられていることが分かりました。

OCNS として実践を行い、良い結果を残すに留まることなく、それを病院や地域の医療者、一般の人に見える形にすることで、CNS の役割を知ってもらうことの重要性を考える機会となりました。

今回の特別講義を受け、OCNS の活動を可視化するためには、CNS 一人の力でできないこともあり、人とのつながりや他の専門看護師との連携の仕方についても知ることができ、専門看護師としての今後をイメージすることができました。」という学びが聞かれました。

田代 OCNS の講義を通じて、参加した大学院生や修了生それぞれが、「自身のキャリア開発」「自分が目指す OCNS 像」を考えるきっかけになった特別講義となりました